

月刊 CDC ガイドライン ニュース
 CDCガイドラインの最新情報をとこよりも早くお届けします！
 編集長／矢野邦夫

新型インフルエンザ (H1N1) は空気感染しないとされた報告「ツアー客での新型インフルエンザの集団感染にて空気感染はみられなかった」
<http://www.cdc.gov/eid/content/15/10/pdfs/09-1013.pdf> があるので紹介する。

この報告は「30人のツアー客において新型インフルエンザ A (H1N1) の集団感染が発生したが、その感染の状況から **新型インフルエンザは空気感染せず、飛沫感染または媒介物による感染であった**」というものである。

発端患者は米国国籍の40歳の女性である。彼女の旅程は「米国↓(飛行機14時間)↓香港↓(飛行機2時間35分)↓成都↓(飛行機45分)↓九寨溝(きゅうさいこう…中国南西部の人気の旅行スポット)↓(バスツアー16時間50分)↓九寨溝↓(飛行機45分)↓成都」であった。彼女は往路で成都に着く直前に悪寒を感じたが、成都空港で家族とともにツアーに加わり、九寨溝

に向けた飛行機に搭乗した(本人を含めてツアー客は24人となる)。九寨溝にて7人がツアーに加わり、いろいろなアトラクションを楽しんだ。その後、当初から参加していたツアー客24人は九寨溝↓成都の飛行機に搭乗した。

結局、発端患者を含めて11人が新型インフルエンザを発症した。平均年齢は36歳(18〜59歳)、男性2人、女性9人である。二次感染患者は発端患者と会話したことのある9人(30%)のツアー客、および飛行機内で彼女から2列以内に座っていた乗客1人(ツアー客ではない)であった。

一方、発端患者と会話しなかった14人のツアー客は誰も発症しなかった。すなわち、この**集団感染は明らかに咳や会話時における飛沫感染によって引き起こされた**と考えられる。

すべての飛行機は HEPA フィルタにて空気を濾過しており、空気の半分以下が再循環され、残りは外部から取り入

12月号

第九十六回
 新型インフルエンザは空気感染しない」という事例

れられていた。そして、客室の空気は3分ごとに循環していた。ツアー客は70%の空気が再循環され、30%が外気であった。空気は濾過されて、座席の上の空気口からバス内に送気されていた。

ツアー客は6時間50分の間、バス内にて一緒であった。そして、30人(発端患者を除く)中9人が発症した。2分以上2m未満の距離で発端患者と会話していたツアー客は16人いたが、その中の発病率は56%であり、会話しなかった14人は誰も感染しなかった。

10分以上発端患者と会話したツアー客は、2〜9分間会話した客よりも約5倍感染しやすかった。発端患者と会話しなかった14人の客も、同じテーブルで食事したり、飛行機やバス内で2列以内に座ったり、チューインガムを彼女からもらったりはしていた。これら14人の感染しなかった客のうち3人はバス内で発端患者から2席以内に座ったが、近距離での彼女との会話はな

かった。興味深いことに、発端患者も1人の二次感染患者も九寨溝から成都への帰り便では発熱があったが、空港での体温スクリーンでは検出されなかった。もう1人の二次感染患者は帰り便で頭痛があった。これらの3人の症状のある患者は健康調査票を記入したが、症状について申告しなかった。別の9人の患者は帰宅してから発症したので、彼らも空港でのスクリーニングでは検出されなかった。このデータは、**空港での体温スクリーンおよび健康調査票は新型インフルエンザの検出には無効である**ことを示している。

プロフィール



やの・くにお
 県西部浜松医療センター 副院長 兼 感染症科長
 「ねころんで読める CDC ガイドライン (メディカ出版)」等、CDC 関連の編・訳書多数。
 ●今月の矢野編集長
 「ねころんで～」の第3弾を書き上げた。我ながら、面白い本が書けたと思った。新型インフル対策もしっかり網羅した！ 集団感染も！